

黄色いつばをもつテングタケ属のきのこについて

(コタマゴテングタケ類似種)

山川 続

1 はじめに

平成23年10月22日、唐津市虹ノ松原で行われた、一般の方を対象にしたきのこ観察会に参加しました。佐賀きのこ会副会長の蒲原邦行さんから説明(写真1)を受けた後、採集開始です。採集し終えた後、皆さんが採集したきのこを机の上に広げて、同定開始です。参加人数が多かったので、大収穫でした(写真2)。この机の左側にも、きのこで埋め尽くされた机があります。



(写真1) 開会あいさつ



(写真2) 採集されたきのこ達

この観察会に参加したもう一つの理由は、勤務している中学校で翌日に行われる文化祭に展示するためのきのこを入手するためでした。採集されたきのこの中から状態がいいものをいただいて、写真3のように、写真とともに展示しました。この展示したきのこの中に、今から紹介する不思議なきのこがありました。



(写真3) 文化祭での展示のようす

2 最初に出会ったコタマゴテングタケ類似種 (テングタケ属マツカサモドキ亜属タマゴテングタケ節)

場 所：佐賀県唐津市虹ノ松原

期 日：平成23年10月22日



このきのこで一番気になった部分は、黄色いつばです。傘中央には粒状いつば、周辺にうす黄色の外被膜片の名残があります。傘が黒っぽく、黄色いつばをもつテングタケ科のきのこといえば、クロコタマゴテングタケを思い浮かべます。クロコタマゴテングタケの特徴として、傘には繊維状鱗片が放射状にあり、柄の基

部には厚膜で帯赤褐色の浅いつぼなどをあげられますが、写真のきのこは、今まで観察したクロコタマゴテングタケと何か違う感じを受けました。ただ、ひだがピンク色っぽいのが気になります。

そこで、蒲原邦行さんをとおして、長澤栄史先生に聞いていただいたところ、下記のようなコメントをいただきました。

西日本の松林に良く発生するコタマゴテングタケ類似種です。つぼのところにあたる柄基部に紫色を帯びた染みを生じるのが特徴（今回の標本にも認められる）で、今のところコタマゴテングタケ（広義）の一変異種として取り扱っていますが将来的には別種となる可能性もあります（*Amanita sinocitrina*, *A. citrine* f. *lavendula* などのとの比較検討が必要）。

長澤先生のコメントから推察すると、まだコタマゴテングタケの変種が整理されていないということでしょうか。とりあえず名前をつけるなら、「コタマゴテングタケ類似種」になるのでしょうか。

3 次に会ったコタマゴテングタケ類似種（テングタケ属マツカサモドキ亜属タマゴテングタケ節）

場 所：佐賀県唐津市虹ノ松原

期 日：平成23年11月6日

佐賀きのこの会の今年度最後の例会「秋のきのこを食する会」が、佐賀県唐津市^{きゅうらぎまちあまがわ}厳木町天川で行われ、参加しました。集合時間を過ぎても大雨が止まず、観察できるのか危ぶまれましたが、どうにか雨が止み、近くの山まで移動して、約1時間30分と短時間でしたが観察・採集しました。その後、^{あまがわ}天川集会場に採集したきのこを持ち寄り並べた後、きのこ鍋を囲みながら談話しました。



ここでも、長崎県民の森で見られる“新種？クロチチタケ”が大量に採集されました。また、初めてコガネタケを見ました。個人的には、この日、佐賀きのこの会に入会しました。

1時過ぎに解散したので、気になっていたコタマゴテングタケ類似種を採集するため、虹ノ松原に向かいました。この時に撮影したコタマゴテングタケ類似種が下の写真3枚です。

これも、10月22日に採集されたものと同じコタマゴテングタケ類似種です。黄色いつぼがあり、柄基部に紫色を帯びた染みを生じています。傘中央には灰褐色の粒状いぼがあり、表面全体が白っぽい外被膜破片でおおわれています。



このきのこについても、長澤栄史先生から下記のコメントをいただきました。

添付のきのこですが、前回コメントいたしましたとおりです。外観的にはコタマゴテングタケとクロコタマゴテングタケの中間的な特徴を持っているように見えます。

このきのこの標本はどうなっていますか？乾燥標本にしてあれば後日送ってください。時間があるときに見てみます。今年の標本が無ければ、来年また発生した時には乾燥標本を作っておいてください。

今年は、乾燥標本作りだけではなく、孢子や菌糸などの顕微鏡観察を行い、次に紹介するコタマゴテングタケ類似種に似たきのこの比較をしたいと思います。「北陸のきのこ図鑑」に掲載されているコタマゴテ

ングタケモドキと虹ノ松原で採集したコタマゴテングタケ類似種とは、傘の色変化やつばの形が違うようですが、長澤先生がいわれているコタマゴテングタケ類似種の中にコタマゴテングタケモドキも含まれているのか別物なのか 気になるところです。コタマゴテングタケモドキの特徴として、「肉が白色だが傷ついたり老成すると赤褐色味を帯びる、菌糸はクランプなしなど」となっているので、今年、菌糸の観察もしたいと思います。

4 コタマゴテングタケ類似種に似たきのこ

(1) ヒメテングタケ

場 所：大村市狸ノ尾

期 日：平成23年11月6日

大きな特徴は、傘表面にある黄色い粉状のいぼです。見つけたときはテンクダケと思いましたが、テングタケには白いいぼがあります。そこで、兵庫きのこ研究会の掲示板に投稿し、ヒメテングタケと教えていただきました。ヒメテングタケは、テングタケ属マツカサモドキ亜属キリシタケ節に分類され傘に条線がありませんが、テングタケはテングタケ属テングタケ亜属テングタケ節に分類され傘には条線・溝線があるので、いぼの色だけではなく、条線の有無でも違いがわかります。



ヒメテングタケの特徴は、図鑑にもウェブページにも載っていないので、詳しくはわかりませんが、私が見た感じでは、暗褐色の傘に黄色い粉状のいぼがある、白いつばがある、柄は白っぽい、球根状のつばの上端に黄色いいぼの名残が環状に付いている、でしょうか。諫早市上山公園でも観察しました。

ウェブページには、ヒメテングタケに似たシラネテングタケが紹介されていますが、両者の違いはわかりません。

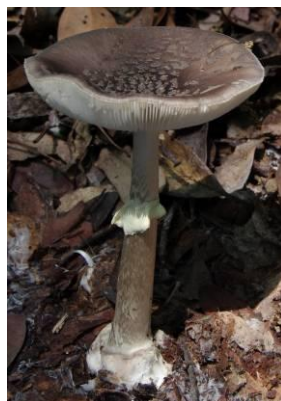
(2) ヒメテングタケ類似種？、コタマゴテングタケ類似種？

両方とも黄色いつばがあり、黄色っぽいいぼがあります。また、膨大した柄基部の上端には黄色いいぼの名残が変色して環状に付いているように見えます。黄色っぽいいぼとつば上端の特徴に注目すると、ヒメテングタケに近いですが、つばが黄色です。ヒメテングタケのつばは白ようなので、白いつばが変色して黄色になったのでしょうか。また、柄にあるつばの下が傘と同じ色で黒っぽく、だんだら模様に見えます。ヒメテングタケの柄は白いようですが、個体差の範囲内でしょうか。



写真5は、クロコタマゴテングタケと思って撮影したのですが、つばの形、つば下の柄の模様、黄色っぽいいぼがあり、違うかなと思っています。近くには、柄が真っ白で、黄色いつばをもつものが生えてました。全体的に見れば、コタマゴテングタケ類似種かなと思います。今年、孢子、菌糸のクランプなどの顕微鏡観察を行い、それぞれ違いがあるのか調べたいと思います。

(写真4) 大村市狸ノ尾で撮影



(写真5) 大村市野岳湖で撮影